



あまみくんとく
奄美群島の

わきやあまみ20

山や里のカニ



はじめに

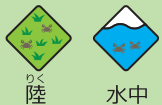
奄美群島では、カニはとても身近な存在です。探さなくても出会える生きものの一つではないでしょうか。そんなカニのことをみなさんはどのくらい知っていますか？どんな体の作りをしているのか。どんな生活を送っているのか。意外と知らないカニの生態について、目を向けて一緒に学んでみましょう。

かくしゅせつめい 各種説明のみかた

すんでいる場所 (川)



ふだんの生活場所



すんでいる島

記ろくのある島をオレンジ色でぬりつぶしている

奄: 奄美大島 喜: 喜界島
徳: 徳之島 沖: 沖永良部島
与: 与論島
※加計呂麻島、請島、与路島については、よくわかっていない

真っ赤だな～

ベンケイガニ (Sesamops intermedius)



ベンケイガニ科

科名

名前 (学名)



甲らのはば: 32mm ほど



甲らのはば
手の長さは
15cm



4目と目の間には、4つのもりあがりがある。



甲らの前縁に1つの切れこみがある。

甲らの前縁に1つの切れこみがある。目と目の間の中央にはへこみがあり、4つのもりあがりがある。体色は、赤や赤みのこいだい色。はさみあしの指部分が黄色や白色で、掌部にはつぶつぶがある。夏の時期に、繁殖のために道路をわたるすがたをよくみる。車にひかれていたものも多い。

カニとは？

十脚目の中の短尾下目に入っている甲殻類の総称です

十脚目とは、足が5対10本ある甲殻類のことをいいます

- 短尾下目 (カニ)
- ヤドカリ下目 (ヤドカリ)
- 短尾下目ヤドカリ下目、以外のエビ

甲殻類とは、エビやカニ、ミジンコ、ワラジムシ、などのことをいいます。



「目」とは、近いなかまの科を集めた大きなグループ。目から「下目」にわかる。

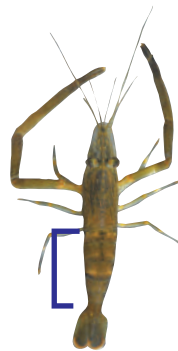
「科」とは、特徴がにているなかま。

今回のわきやあまみ 20「奄美群島の山や里のカニ」では、陸でよく見られる、オカガニ科、サワガニ科、ベンケイガニ科、モクズガニ科、イワガニ科を紹介しします。

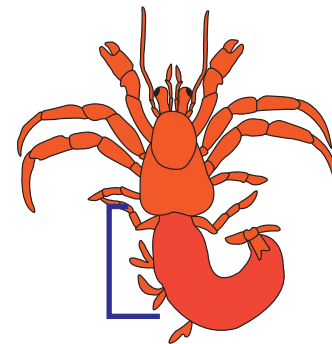
エビ、カニ、ヤドカリのちがい

エビ、カニ、ヤドカリは同じ十脚目のグループなので、からだの基本的なつくりは一緒です。見た目だけでは区別がつかない種類もいるので、腹部(「おなか」のこと)のかたちでエビ、カニ、ヤドカリを区別できます。

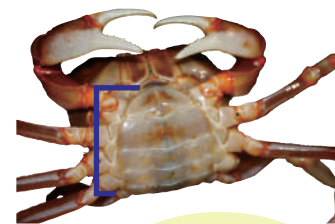
エビの腹部: 長い



ヤドカリの腹部: 右に曲がっている



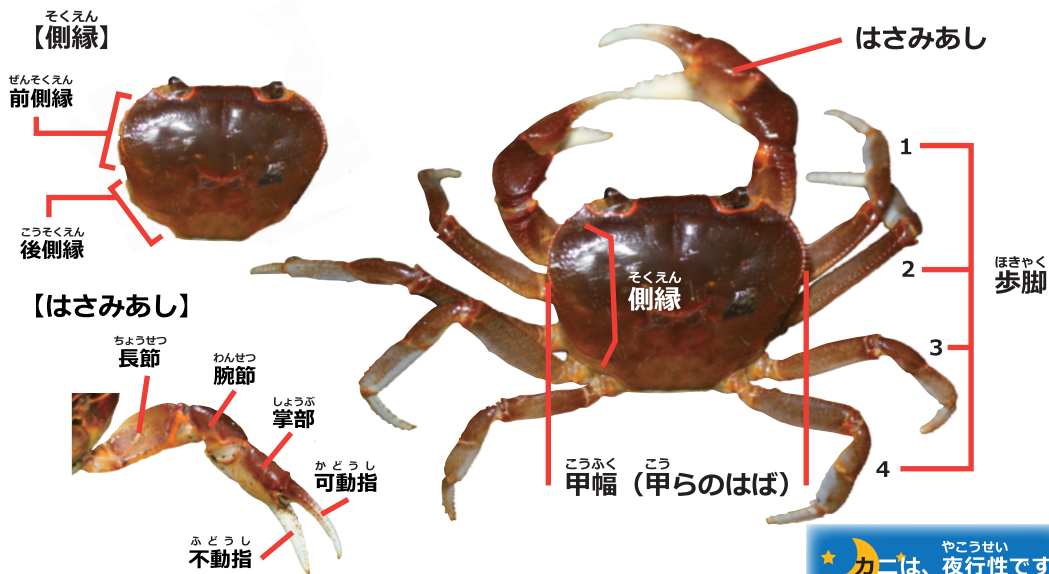
カニの腹部: おりたたまれている



カニの腹部については4ページをみてみよう

どんな体をしている？

からだのつくり (せなか側)



カニは、夜行性ですが、
 昼に活動することもあります。

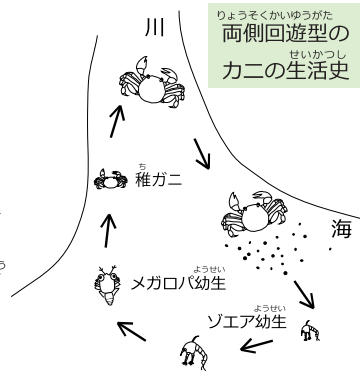
からだのつくり (正面)



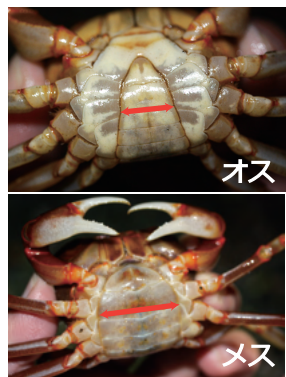
はんしよく 繁殖

カニのこどもは海で育つ。ただし、サワガニはべつ！

川にすんでいるカニは、海とは関係なく生活しているようにみえますが、じつは、海がないと生きていくことはできません。たまごをもった母ガニは、時期になるとたまごからふ化したこども (ゾエア幼生) を海にはなちます。そのこどもたちは、海でプランクトンとして生活し育ちます。そして稚ガニといわれる大きさに育つと川を上り、川で生活します (両側回遊型)。ただし、サワガニのなかまは、たまごからゾエアを経ずに稚ガニがふ化するので、海におけることはありません (陸封型)。



オスとメスのちがいは？



腹部のはばで見分けることができます。はばがせまいのがオス、メスはたまごをかかえるためのはばが広いです。



うんちはどこからでてくる？



腹部の一番先は、尾節とよばれますが、そこからうんちが出てきます。

だっぴ 脱皮



カニは、脱皮をくりかえしながら成長します。甲らだけではなく、あしや目も全て脱皮するので、自切したあしも新しく生えます。また脱皮するときは、背中の中から古い殻をぬぎすていきます。そのため、脱皮殻は、背中がパカッと開きます。

脱皮殻 (背中を開いた状態の写真)

アマミミナミサワガニ (Amamiku amamensis)



上 中

奄 喜 徳
沖 与

こら
甲らののはば：30mm ほど



せんそくえん
◀前側縁に1つ切れこみがある。



◀たまごのサイズが3mm前後と大きい。

あまみおおしま とくのしま こゆうしゅ こら
奄美大島と徳之島の固有種。甲らは台形で、表面は平たくザラザラして、横に線が入る。前側縁に1つ切れこみがある。体色は、暗いだいたい色から暗い茶色。水場近くの陸上でも活動する。サワガニのなかまは、他のカニとはちがい、たまごからじかに稚ガニがうまれるのでたまごのサイズが大きい。

サカモトサワガニ (Geothelphusa sakamotoana)



上 中

奄 喜 徳
沖 与

こら
甲らののはば：40mm ほど



◀体色は、黒っぽい赤茶、赤、あわい黄、青白など、さまざま。

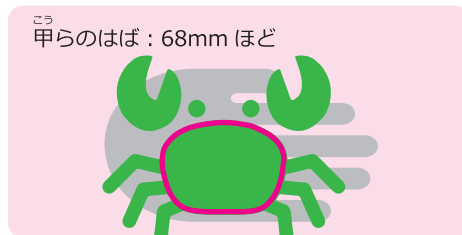


◀甲らの前側縁はつづつづしている。

たからしま あまみおおしま おきなわしま こゆう
宝島、奄美大島から沖縄島の固有種。甲らは台形で光沢がありツルツルしていて、前側縁はつづつづでふちどられて、切れこみがない。体色は地域によって差があり、いろいろな色がある。水場近くの陸上でも活動する。

ほおの毛がボーボー

オカガニ *(Cardisoma hirtipes)*



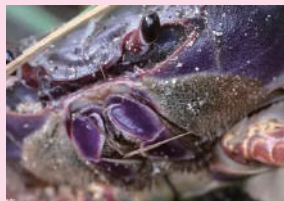
オカガニ科

とにかくでっかい

ミナミオカガニ *(Cardisoma carnifex)*



オカガニ科



◀ほおに毛がたくさん生えている。



◀ミナミオカガニより目が短い。

甲らはなめらかで光沢がある。体色は、暗いむらさき色からあわい茶色。はさみあしはこい茶色で、オスの大人でも、左右のはさみの大きさがほぼ同じ。ほおの部分にはミナミオカガニよりたくさん毛が生えている。ほおの毛が多いのは呼吸するための水をにがさないため。



◀オカガニより、ほおの毛が少ない。



◀オカガニより目が長い。

奄美群島では与論島のみに生息している。陸で生活するカニの中で一番大きい。体色は暗いむらさき色から暗い茶色。ほおの部分に毛が生えているがオカガニより少ない。オスの大人は、はさみあしの左右の大きさにちがいがあ。一番上の写真はたまごをもったメス。5 ページのサワガニのたまごのサイズとくらべてみよう。

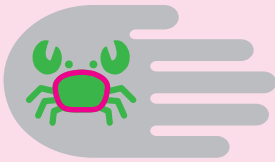
真っ赤だな～

ベンケイガニ科

ベンケイガニ *(Sesarmops intermedius)*



甲らののはば：32mm ほど



◀ 甲らの前側縁には1つの切れこみがある。



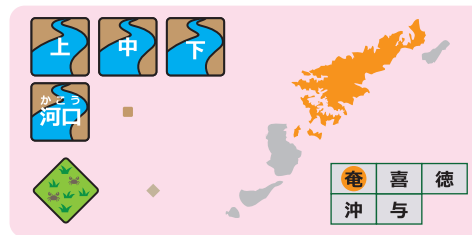
◀ 額には、4つのもりあがりがある。

甲らの前側の中央にへこみがあり、前側縁には1つの切れこみがある。額には、4つのもりあがりがある。体色は、赤や赤みのこいだい色。はさみあしの指部分が黄色や白色で、掌部にはつぶつぶがある。夏の時期に、繁殖のために道路をわたるすがたをよくみるが、車にひかれているものも多い。

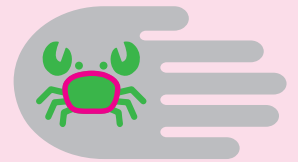
手が赤い

ベンケイガニ科

リュウキュウアカテガニ *(Chiromantes ryukyuanum)*



甲らののはば：32mm ほど



◀ 体色は、黒っぽい茶や緑がかった茶、赤。



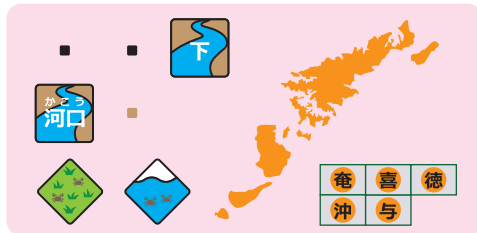
◀ 側縁に切れこみはない。

甲らはほぼ四角で表面はなめらかで光沢がある。体色は黒っぽい茶や緑がかった茶など。時おり真っ赤な個体もあり、ベンケイガニに似るので注意が必要。ベンケイガニとのちがいは、側縁に切れこみがないこと。名前のとおり、はさみあしは赤色、指部分は白い。水場からはなれた森林にもすんでいる。

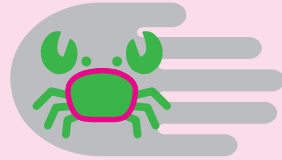
あしの毛がポーポー

ベンケイガニ科

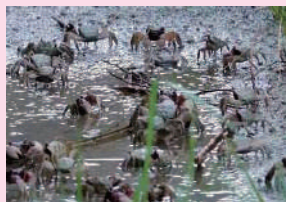
クロベンケイガニ (Chirromantes dehaani)



甲らののはば : 37mm ほど



◀はさみあしは、むらさき色で、全体につぶつぶがたくさんある。



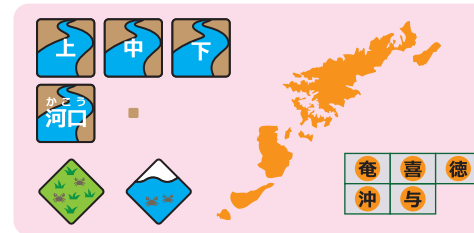
◀水辺で群れているところをみることができる。

甲らはほぼ四角で表面はなめらかで、前側の中央がへこんでいる。体色は黒っぽい茶色。はさみあしはむらさき色で、たくさんのつぶつぶがある。ベンケイガニに似るが側縁に切れこみはない。歩脚にたくさんのかたい毛が生えている。川の周辺にあなをほって生活する。

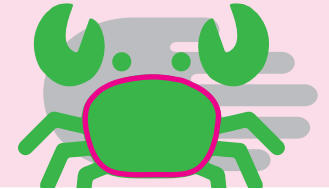
手の毛がもっさり

モクズガニ科

モクズガニ (Eriocheir japonica)



甲らののはば : 75mm ほど



甲らの前側縁には、2つの切れこみがある。



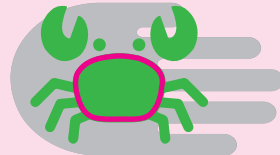
◀昔から全国各地で食べられている。

甲らは丸みのある四角の中央はへこんでおり、前側縁に2つの切れこみがある。はさみあしには毛がたくさん生えている。秋から冬にかけて繁殖のために川を下るが、人はその下ってくるモクズガニをとり、食料としてきた。

カクレイワガニ (Geograpsus grayi)



甲らのはば: 48mm ほど



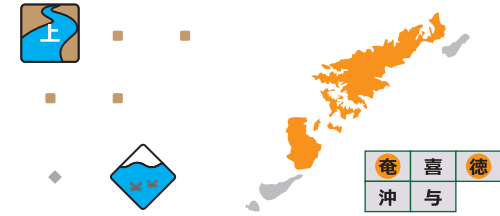
◀はさみあしの長節の部分に特徴的な突起がある。



◀たまごをかかえている様子。

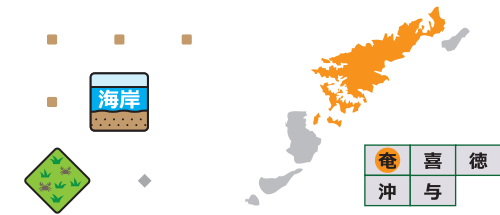
甲らは、やや丸い四角形。体色はあざやかなむらさき色だが、はさみあしもむらさき色で指部分が白色をしている。他のイワガニのなかまとちがって、海から遠くはなれた林内でも見つかっており、陸での生活がメイン。

リュキュウサワガニ (Geothelphusa obtusipes)



奄美大島と徳之島の固有種。甲らのはばは、20mm。甲らはザラザラしている。体色は、暗い茶色。側縁に切れこみはない。歩脚は太く短くかたい毛がまばらに生えている。はさみあしの掌部と腕節部分にトゲがある。水中からはほとんどでることなく生活している。

ムラサキオカガニ (Gecarcoidea lalandii)



甲らのはばは、50mm。これまで奄美大島と宮古島以南でしか記録がないが、他の島にもいる可能性はある。甲らはなめらかで、額がせまく中央がくぼんでいる。体色は、名前のおりむらさき色をしている。ほかにほとんど毛はない。歩脚には、トゲがある。

こうつうじこ カニの交通事故

ようちゅうい
夜の道は要注意！

どうろ 道路に出てくるカニ

みなさん、夏から秋頃にかけてたくさん
のカニが、夜、道路に出てきているのを
見たことがあるのではないでしょ
うか。そして、その道路では、たく
さんのカニたちが車でひかれている
すがたもみていると思います。

どうろ
道路をうめつくすベンケイガニ▶

こうつうじこ カニはなぜ交通事故にあうのか

カニは、夏から秋頃にかけて、繁殖のために海に向かいます。(繁殖については、3ページを
みてみよう) 海にでるためには道路をわたる必要があり、そのときに車にひかれてしまうカニがた
くさんいます。

運転するときに、思いやりを

道路に出てきている全てのカニをよけるのはむずかしいかもしれませんが、カニがたくさん出てきている道路では、スピードを落とし、無理の
ない範囲でカニをよけてあげませんか？

カニは、次の世代に命をつなげるために一生懸命に道路をわたって
います。カニに限らず、道路に出てくる全ての動物たちへ、思いやりの
ある運転にご協力をお願いします。

▲車にひかれたモクスガニ

参考文献 日本の淡水性・汽水性甲殻類 102 種 日本のエビ・カニ (誠文堂新光社 著: 豊田幸詞、関慎太郎) 食卓で学ぶ甲殻類のからだのつくりエビ・カニ・シヤコ類の
教材化に関する研究一 (広島大学大学院教育学研究科紀要 著: 富川光、鳥越兼治) 水から陸へカニたちの多彩な生活 (鹿児島大学総合研究博物館 News Letter NO.39)
モクスガニ Eriocheir japonica (de Haan) の繁殖生態 (総説) (日本ベントス学会誌 54 巻 (1999) 著: 小林哲) エビ・ヤドカリ・カニから鹿児島を見る (北斗書房 著: 鈴木廣志)
水辺の自然・遊んで学ぼう 海の生き物【すみ場所別図鑑】(学習研究社 監修: 武田正倫) 原色日本大型甲殻類図鑑 II (保育社 著: 三宅貞) ニューワイド学研図鑑 水の生き物(学
研教育出版) 小学館の図鑑 NEO 水の生物 (小学館) 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編一鹿児島県レッドデータブック (鹿児島県環境林務部自然保
護課 編集委託 / 発行 一般社団法人鹿児島県環境技術協会) 琉球列島の陸水生物 (東海大学出版会 監修: 西島信昇) 海辺のエビ・ヤドカリ・カニハンドブック (文一総
合出版 著: 渡部哲也)

学校

年

組

名前

2021年3月発行

制作: 奄美自然体験活動推進協議会・環境省奄美野生生物保護センター

制作協力: 木元侑菜・山室一樹 (五十音順)

写真提供: 西表野生生物保護センター・木元侑菜・後藤義仁・迫田拓・鈴木廣志・

高美喜男・永井弓子・西真弘・山室一樹 (五十音順)

ヤドカリイラスト提供: 西海国立公園九十九島水族館海きらら